



国民の森林・国有林

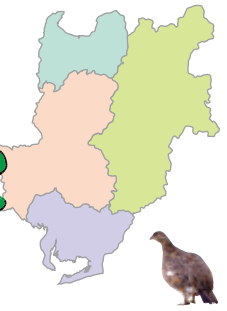
林野庁
中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



編成式で派遣者を激励する新島局長

九州北部豪雨災害へ

「山地災害緊急展開チーム派遣」の編成式を開催

主な項目	○ 中部森林管理局 計画保全部長交代	P2
	○ 各地からのたより	P5
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P9
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P10

中部森林管理局
計画保全部長交代



計画保全部長
鈴木 正勝

このたび、八月一日付けで計画保全部長を拝命しました鈴木です。よろしくお願ひします。

私は生まれ育ちが九州・宮崎で林野庁に就職して以来、北海道局、関東局、林野庁などで勤務し、今回、宮崎森林管理署から赴任しました。九州では昨年の熊本地震に続き、このたび九州北部豪雨災害が発生し、中部森林管理局の皆様には山地災害緊急展開チームを派遣いただくなど多大な支援を賜っていることに對し、あらためて感謝申し上げます。

中部局管内の勤務は今回が初めてとなりますが、標高三千以上の峰々が連なる我が国有数の山岳地帯から、都市近郊林や里山まで変化に富んだ国有林を抱えるとともに、伝統ある木曾ヒノキ林をはじめ林業が盛んであるこの地を管理する中部局で勤務できることは、大変光栄であり、身の引き締まる思いです。

さて国有林野事業は平成二十五年度の一般会計化から五年目となりました。い

よいよ一般会計となったことの成果が問われることとなりますが、その評価は我々国有林の実施している事業や取組が国民や地域の方々にどれだけ認知されているかが重要と思います。中部局においては既に地域の森林整備はもちろんのこと、平成二十六年の南木曾の土石流災害や御嶽山の噴火災害など大規模災害への迅速な対応、市町村との連携協定の締結など、地域のニーズを汲んだ取組が局・署をあげて前向きに取り組まれていると感じています。中部局の先輩方や現職の皆様が築いてきた地域との良好な関係が今後も継続、さらには発展させていけるよう私も努力して参りたいと思います。

また、管内には日本アルプスの山岳地帯や原生的な自然環境などが多く分布している一方で、林業や観光等との調和も大きな課題だろうと思っています。この点についても、「木曾悠久の森」の取組や保護林の再編、レクリエーションの森の見直しなど着実に進められており、関係等の皆様には引き続き協力をお願いいたします。なお、三千以上の登山はこれまで富士山以外ありませんが、無理のない範囲でできるだけ自分の目で確かめたいと思っています。

いずれにしても、木曾ヒノキをはじめとした中部局管内の森林整備の推進や、すばらしい山岳景観の維持・保全などの重要性をあらためて強く認識しています。これから、多くの現場を見せてい

ただき、また様々なことを教えていただきながら、職員の皆様や県や市町村、事業者の方々とともに、国有林の使命である、公益重視の管理経営と林業成長産業化への貢献という重要課題に取り組んでいきたいと考えていますので、よろしくお願ひいたします。

◆鈴木計画保全部長の略歴
生年月日 昭和38年12月9日

本 籍 宮崎県

略 歴 宮崎大学 農学部 林学科卒業 (昭和61・3)

昭61・4 林野庁業務部経営企画課に採用後、指導部造林課、北海道局・余市営林署、経営部計画課、林野庁・業務部経営企画課、指導部計画課、構造改善局・計画部地域計画課、科学技術庁、北海道局・新得営林署長、十勝西部森林管理署次長(新得事務所長)、企画調整部企画調整官(帯広分局企画調整第三分室長)、林野庁国有林野部経営企画課課長補佐、森林整備部研究普及課課長補佐(技術開発班担当)を経て

平19・2 北海道森林管理局計画部計画課長

平21・8 関東森林管理局利根沼田森林管理署長

平23・8 林野庁国有林野部経営企画課

企画官
平28・4 九州森林管理局宮崎森林管理署長

平29・8 中部森林管理局計画保全部長

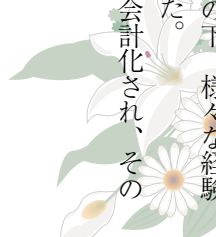
お別れにあたって

前計画保全部長 江坂 文寿

このたびの異動で、四国森林管理局へ転任することとなりました。平成二十七年四月から二年四カ月の間、皆様には大変お世話になりました。

中部森林管理局での取組や出来事を振り返ってみると、温帯性針葉樹林の保存・復元のための「木曾悠久の森」管理基本計画の策定、その計画を推進・担保する「木曾生物群集保護林」の設定と復元計画の策定、保護林制度の改正に伴う局管内全ての保護林の再編、木曾ヒノキの伐採計画の大宗となる木曾谷計画区の国有林野事業実施計画の樹立、多様な森林づくりの推進、国有財産管理の体制整備、「レクリエーションの森」の再編、「日本美しの森 お薦め国有林」の設定、国民の祝日「山の日」制定に伴うPR活動や上高地で初の全国大会、局治山課・木曾署・南木曾支署の人事院総裁賞の受賞、山地災害対応能力強化プロジェクトの発足、「木曾式伐木運材図会」の林業遺産認定など、局・署をはじめ多くの関係者のご理解とご協力の下、様々な経験をさせていただきました。

国有林野事業が一般会計化され、その



成果が求められる中、国有林の地域における存在感をいかに高め、国有林があつて良かったと言っていただけできるようなとの観点で、業務に取り組んできたつもりです。このため、特に、国有林サイドからの情報発信の強化と、地域住民の立場から見た上での各種事業の計画立案と実行に努めたところです。職員の皆さんには、この意図を理解し積極的に取り組んでいたいただいたことにより、わかりやすいプレスリリースが数多く発信され、国有林関連の正確で好意的な報道が増えつつあると思えました。また、地域から直接的に感謝の言葉をいただくような取組成果も増えつつあると感じていました。今後も一層の取組を期待しています。

小官も中部森林管理局での経験を糧として、新任地でも地域住民に一層親しまれる国有林となるよう取り組む所存です。

最後となりますが、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、お別れの挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

新島局長、OB3者と懇談

〔総務課・木曾署〕七月二十八日、木曾

署庁内において、上松町内在住の国有林OB、高倉さん、合戸さん、杉本さんの三者と新島局長との懇談会が行われました。



「あの頃の木曾林業」を見ながら

この企画は、OBの方々からの強い要望により、赤沢自然休養林が五十周年を迎えるに当たり、上松町に勤務経験のある新島局長と自分たちの現役時代（昭和二十年代）からの赤沢について懇談し、今後のために役立てることとして実現しました。

まず懇談に入る前に、新建新聞社『日本の原点シリーズ木の文化2（檜）』の「あの頃の木曾林業」に掲載の、昭和二十四年頃の赤沢建物配置状況絵図を見ながら当時をイメージしました。

その後、他の写真や書物なども参考に、OBの方々が始めた昭和二十三年頃からの食料事情の悪さや、すでに人工林があつたこと、上下関係の厳しさや

赤沢へ山泊に入れば途中で下山はできなかったことなど、様々な話を伺いました。

また、当時「うぐいす」と言われた美濃紙で作られた短冊綴り（今の野帳）を復元

されており、これを見ながら、当時の杣夫たちが使用した



復元された「うぐいす」

難解な符牒（伐倒された木に付けられた記号等の読みあげに使用していた独特な言葉）などについて説明をいただきました。

特に、奥千本や千本立ちで択伐を行い、手伐りで伐採し造材も行なったこと、一日一人で二十石（森林鉄道の台車一両分）出せれば一人前と言われたこと、当時の赤沢は、木曾ヒノキが七割程度占めており広葉樹も一割程度混交した鬱蒼とした山だったこと、ヒバは林鉄の枕木として使用していたことなど興味深い話が伺えました。

話は尽きない中でしたが、二時間の予定時間があつという間に過ぎてしまい、今後中部森林管理局へのご理解ご協力をお願いして閉会しました。

なお、今回懇談した高倉氏が「回想」という本を自費出版されており、今回伺っ

た話を含め、昭和二十年代の赤沢を知ることのできる内容となっております。販売はされていないことから、興味のある方は広報へご連絡ください。



今の図面を見ながら、当時に思い返す参加者

九州北部豪雨災害へ

山地災害緊急展開チーム派遣

〔企画調整課〕八月四日、中部森林管理局局長室において、九州北部豪雨災害への山地災害緊急展開チーム派遣の編成式が行われました。

七月の九州北部豪雨災害により、福岡県及び大分県で発生した大規模な山地災害は、人命・人家・公共施設等に甚大な被害を与え、二次災害の発生防止と早期復旧が求められています。このような中、福岡県及び大分県より、林野庁に対



派遣者を代表しての小瀬専門官からの決意表明 (向かって右端)



新島局長より激励を受ける派遣者

し、民有林内の山地災害箇所等の現地調査や、災害復旧等事業に関して、国有林の森林土木係職員による技術的な支援要請がありました。これを受けて中部局から、山地災害緊急展開チームとして、治山班と林道班各一班、計六名の職員を

派遣することになり、その編成式が行われたものです。

編成式では、始めに、趣旨説明と派遣者の紹介が行われ、続いて新島局長から、派遣者への激励があり、その後、派遣者を代表して治山課小瀬専門官より決意表明がありました。

展開チームの皆さんは、大分県日田市の大分西部森林管理署を拠点に、福岡県朝倉市、同県東峰村内の山地災害箇所において、現地調査を実施するなど早期復旧に向けた技術的な支援を実施する予定です。

〈派遣者〉

■治山班

局治山課

専門官(災害調整担当)

小瀬 弘一

民有林治山係長

川本 淳

木曾署

治山技術官

岡庭 敏夫

派遣期間 八月七日～八月十一日

■林道班

局森林整備課

技術指導官(路網担当)

澤口 篤夫

村田 則幸

岐阜署

路網整備係長

田丸 清彦

主任森林整備官(土木担当)

派遣期間 八月二十八日～九月一日



「名古屋事務所」「熱田白鳥の歴史館」では、山の日、子供たちの夏休みに併せ、森林鉄道資料展と丸太切りの企画を実施しています。

森林鉄道資料展は、小坂森林鉄道研究会の協力を得て、ジオラマ、パネル、資料類の展示を行っています。

遠くは大阪府など、日頃、歴史館を訪れなかった方々が来場されています。来場者からは、「名古屋にこのような場所(歴史館)があったことを知らなかった」「また、子供と来ます」など歴史館の存在を知っていただく良い機会となっています。



森林鉄道資料の展示風景



それぞれに切った丸太を手にポーズ



丸太にドングリなどを装飾した作品

丸太切り企画は、小学生を対象に、日頃、木に触れる機会が少ない都会の子供たちに木とふれあう機会をとの思いで企画しました。

夏休みに入り、日ごとに体験希望が多くなり、暑いで汗をかきながら丸太切りを体験しています。丸太切り後は、自



治山工事施工地の視察

各地からのたより

町議会の国有林視察 及び意見交換会を開催

〔南木曾支署〕 七月五日、南木曾町議会の国有林対策特別委員会（全議員）と向井町長ほか役場職員を含めた十六名による国有林視察及び意見交換会を開催しま

分が切った丸太にドングリなどの装飾をほどこし、おもいおもいの作品を完成させています。
二つの企画は、子供たちの夏休みが終わる八月三十一日まで開催しています。



意見交換会の様子

した。

現場視察では、北蘭国有林の「額付本谷」と「ヌスピト沢」の治山工事施工地において完成後の状況を視察し、今年の工事予定について説明しました。また、視察の際には、ドローンの飛行実演も行い上空からの現場画像も見ていただきました。

なお、この現場は南木曾岳への登山道に隣接しており、通りかかった登山者が、残存型枠を使用した治山ダムなどの写真を撮影し、インターネットの情報サイトに「木曾ならではの書き込みを添えて掲載するなど、国有林治山の取組



今年で最後、南木曾支署玄関で記念撮影

を広く一般に紹介する場所となつていま
す。
議員からは、「三年前の土石流災害では、梨子沢だけが注目されているが、被害が地域に及ばなかったため知られていないが多くの溪流で災害が発生しており、それを国有林の治山が守ってくれていたことが分かった」との感想や、「南木曾岳は町の貴重な観光資源であり、今後も自然景観に配慮しながら各事業を実施してもらいたい」などの要望がありました。

意見交換会では、今年度の事業予定、

木曾地域のシカ対策の現状や当支署の囲
い罾などの取組について説明しました。

会議の終わりに、議長から、「今までは、儲からないからと山に背を向けて暮らしてきたが、今後は、防災や地域振興などの面からも、しっかりと山と向きあつて暮らしていかなければならないと考えており、そのための一つとして、山を管理する南木曾支署の取組について、さらに町民にも知ってもらう機会を増やしていきたい」と挨拶がありました。

そして、会議終了後、建て替えのため今年取り壊し予定の南木曾支署玄関前で記念撮影を行い閉会しました。

御代田南小学校五年生が 森林体験学習を実施

〔東信署〕 七月五日、北佐久郡御代田町の御代田南小学校五年生の児童百三名を対象に、小諸市にある天狗温泉浅間山荘の広場をフィールドに「森林体験学習」を実施しました。

当日は、昨日までの雨の影響で当初予定していた間伐作業はとりやめ、シラカバの丸太を使つてのクラフト作成とキャンプ地周辺の葉っぱの観察を行いました。

ノコギリ体験・クラフト作成では普段ノコギリを使つたことがない児童が多く、当初は四苦八苦していましたが、だんだんと使い方に慣れてきて上手に丸太



ノコギリ体験の様子

を輪切りにしたりして、巨大色鉛筆を作るなどオリジナルのクラフト作成を楽しんでいました。

葉っぱの観察では小学校の先生から、葉っぱの違いをよく観察し、葉っぱの緑のぎざぎざや葉脈の違いなどスケッチするように指導を受けて真剣にスケッチをしていました。

児童からは「かわいいクラフトができた」「ノコギリを使うのに思ったより力がいった」「貴重な体験ができた。」「木を伐り倒してみたかった」等の声が聞かれました。

御代田南小学校は毎年森林体験学習を実施しており、当署スタッフも楽しみに

しているイベントです。次回も、より児童の皆さんの希望に応えられるような学習会していきたいと考えています。

飯山市と国有林に隣接する

公共施設の確認協定を締結

〔北信署〕七月十二日、飯山市と北信森林管理署とで、国有林に隣接する公共施設の確認協定を締結しました。

この協定は、平成二十八年度から中部森林管理局管内全署において各自治体と取り組まれており、当署では、昨年の木島平村・栄村に続き、三例目の締結となりました。

冒頭、足立飯山市長から、先般、飯山



足立飯山市長（右側）と川村北信署長

市照岡地区で発生した山腹崩壊における協力への御礼があり、また、今回の協定について、「市として大変ありがたい。市と国有林一緒になって、さらに取り組んでいきたい」との感謝の言葉がありました。

続いて、川村署長より、「民有地の奥にある国有林は、業務で職員が国有林に向かう際、市道、林道等を使わせていただいております、これまでも異常があった場合は、連絡を行っていましたが、それをより確実にするために、今回の協定を結ばせていただいた。関田山脈などのフィールドを観光資源として、有効に活用した取組を全国に先駆けて進めている飯山市と共に連携して取り組んでいることを国有林として誇りに思っており、今回の協定を契機に、さらに飯山市との連携を強固にしていきたい」との挨拶がありました。

その後、双方で協定書に署名し、最後に、足立市長・川村署長の固い握手のもと今後のさらなる連携を確認し合いました。

当署では、引き続き関係市町村との協定締結を進めていきます。

東侯国有林で

クリーン活動を実施

〔南信署〕七月二十六日、諏訪郡下諏訪町の東侯国有林内の国道一四二号線、和



ゴミを拾い集める参加者

田峠旧道沿線において、国有林クリーン活動を実施しました。

当日は、当署職員に加え、長野国有林森林整備協会南信支部及び長野林業土木協会天竜支部のご協力をいただき、総勢五十六名で作業を行いました。

ここ数年、同一箇所でのクリーン活動を実施していますが、悪質な事業所ゴミ等の投棄は減っているものの、ペットボトルや空き缶のポイ捨ては相変わらず多く、参加者は、ゴミの多さに顔をしかめながらも、黙々と作業を進め、約一時間の間に軽トラック三台分（約三百二十キログラム）のゴミを集めました。

集めたゴミは、地元、下諏訪町のご協力により、不燃ゴミは下諏訪町清掃セン



当日のクリーン活動の成果

ターで、可燃ゴミは諏訪湖周クリーンセンターで受入れていただきました。

当該箇所は、「ゴミ捨て禁止」の看板が複数設置されているにもかかわらず、効果が上がっていないのが現状であり、道路を管理する長野県の担当部署等と連携し、マナー向上のための普及啓発も含めたさらなる対策を模索していく考えです。

また、「ゴミを捨てにくい環境」を整えていくことも重要ですので、引き続き、地域のご協力をいただきながらクリーン活動を継続して実施していきたいと考えています。

木曽御岳自然休養林と 赤沢自然休養林で ボランテア活動

ボランテア活動

「木曽署」七月十四日、長野林業土木協会木曽支部によるボランテア活動として、王滝村の御嶽山七合目、田ノ原天然公園で木製遊歩道の整備を行いました。当日は、協会員十四社から二十九名が参加して、時折雨が強く降る中、この遊歩道の未完成部分であった約四十メートル間の整備を行いました。今回整備した遊歩道は、現在、農林水産省、文部科学省、総務省の三省が取り組んでいる「子ども農山漁村交流プロジェクト」の中、交流促進事業として当署が田ノ原天然公園のフィールド全域を整備した事業のうちの一部です。この作業に併せて、御嶽山の歴史、森林の役割や植物等を紹介した案内看板を遊歩道沿いに設置し、訪れた人たちが散策しながら学習できるようにしています。木曽谷は平成二十六年九月の御嶽山噴火以降、観光客が減少していますが、火口周辺警報は噴火警戒レベル2（火口周辺規制）（七月十四日時点）に引き下げられ天然公園内を周遊できるようになったことから、大勢の方に訪れていただきたいと考えています。

また、七月十九日に、木曽風景街道推進協議会、豊かな環境づくり木曽地域会議および上松町主催の外來植物除去作業が、上松町の赤沢自然休養林へ至る小川



きれいに整備された歩道



木製遊歩道の整備の様子



オオハンゴンソウの駆除の様子

殿行道沿線約一キロメートルで行われました。当日は、強い繁殖力で増え続けている特定外来植物オオハンゴンソウ（キク科）の駆除を目的として、当署から十二名、長野国有林森林整備協会、長野林業土木協会木曽支部等の関係請負事業体から三十七名が参加しました。駆除作業に当たり長野県植物研究員の方から、オオハンゴンソウの見分け方、「駆除は根こそぎ引き抜かなければ翌年も芽が出る」との講習を受け、太陽が燦々と降り注ぐ猛暑の中、鍬やスコップを使い一生懸命に作業を行いました。総勢約百人が参加した作業で、オオハンゴンソウ約三トが駆除されました。

この取組を通じ、木曽の原風景を守る

ことと同時に、赤沢自然休養林を訪れてくださる方々の増加につながるよう、今後も継続していきたいと思えます。

恵那農業高校生が 森林管理を学ぶ

「間伐体験と木曾ヒノキ備林 見学・学習」

〔東濃署〕岐阜県の「森と木と水の環境教育支援事業（緑と水の子ども会議）」で、岐阜県立恵那農業高等学校、岐阜県恵那農林事務所、東濃森林管理署の三者が連携して、高校生の間伐体験と木曾ヒノキ備林見学・学習を実施しました。



間伐開始前の指導風景



チェーンソーを使って間伐体験

伐を体験し、間伐の目的を理解するとともに、道具の使用方法や安全な伐倒方法について学ぶ」をテーマに、恵那農業高等学校環境科学科の三年生八名が、岩村国有林内で、恵那森林組合の指導を受けながら間伐作業を体験しました。

生徒達は、間伐の目的、チェーンソーの使い方、安全な伐倒作業の方法等について説明を受け、伐倒のデモンストレーションを見学した後、二班に分かれ、全員がチェーンソーを使って間伐作業を行いました。立木の伐倒は初めてという生徒達でしたが、伐倒方向を確認し受け口を作り、水平を意識して追い口を入れ、ツルを切りすぎないように慎重に作業を進めました。伐倒木が傾き予想した方向に倒れたヒノキを見て、自分で倒したことに満足した様子でした。



二代目大ヒノキの説明を聞く生徒達

ころ、多数の生徒が「伐倒体験は初めてであり、難しかった」「チェーンソーの取り扱いが難しい」と話していました。また、八月四日には、同校の二年生二十八名が、「日本三大美林の一つである木曾ヒノキの天然生林を見学し、森林生態や森林管理、植生や、地域林業の歴史や伝統的な伐採について学ぶ」をテーマに、加子母裏木曾国有林を訪れました。

当日は二班に分かれ、一班は最初に木曾ヒノキ備林の成立過程や歴史について学習した後に第六十二回式年遷宮の裏木曾御用材伐採跡地を見学し、二班は歩道を歩きながら森林植生と二代目大ヒノキを見学し、午後からは合同でヒノキとサワラが上下に合体している「合体木」等の見学をしました。



合体木の説明を受ける生徒達

生徒からは「実際に二代目大ヒノキを見て大きいなど実感した」「ヒノキとサワラの合体木に興味を持った」などの感想が聞かれました。今回の体験を通して、生徒達が、地域の森林や林業・自然環境に興味を持ち、将来、森林・林業・木材産業に関連した職業に就いてもらえればうれしく思います。

行事・会議等の予定

◎災害救助訓練

9月1日

中部局全署等

◎地方農政局長・森林管理局長等会議

及び森林管理局長会議

9月12日

農林水産省



「南信森林管理署 大鹿森林事務所」

森林官 南坂 節子

大鹿森林事務所は、長野県下伊那郡大鹿村の塩川、大河原、中山国有林約八、三〇〇鈔を管轄しています。大鹿村は、東の静岡県に接する赤石山脈と西の伊那山地とに挟まれた面積約二四、〇〇〇鈔の山村です。その面積の実に九五鈔を山林や山岳地帯が占め、内三五鈔は国有林です。人口一、〇〇〇人程の過疎の村ですが、日本版ジオパーク、ユネスコエコ



大鹿村から赤石岳遠望



大鹿歌舞伎近景



大鹿歌舞伎遠景

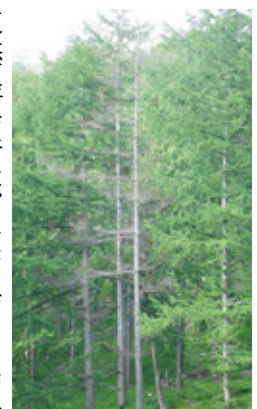
パークに認定、登録されている南アルプス国立公園の赤石岳の懐に抱かれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟し、山中でありながら海水のような塩分濃度の温泉が湧き、南北朝時代の宗良親王にゆかりのある史跡や秋葉街道など、歴史と伝説に包まれた自然豊かな村です。昨年からは赤石山脈を貫通するリニア中央新幹線の工事が本格化し、今年三月には伝統



ニホンジカ食害 (天然トウヒ)

ある大鹿歌舞伎が国の重要無形民俗文化財に指定されるなど話題も豊富です。当森林事務所が管轄する国有林の大半を占める塩川、大河原両国有林には、赤石岳を始めとした村内の主な山岳地帯が含まれており、国有林の保全管理は大鹿村の観光、発展に重要な位置づけであることから村からも格別のご理解と協力をいただいております。また、村の全域が中央構造線上に位置していることから、非常に脆弱な地質で地滑り地帯が多く、昭和三十六年の梅雨災害に端を発する民有林直轄治山事業も盛んに行われています。

大鹿村の国有林は、かつては標高二、〇〇〇鈔以上まで伐採シカラマツの造林地となっている箇所もありますが、脆弱な地質であること等から、現在は間伐を繰り返しながら針広混交林化を図っています。若齢の林分は少なくなっています。成長期であるカラマツ林や漸伐後の



ニホンジカ食害による枯れ (カラマツ)

天然更新箇所は、ニホンジカを中心に野生動物の食害が深刻であり、従来からシカ防護柵の設置や個体数調整を積極的に行ってきました。今年度は、さらにシカ防護柵を新設し天然更新木の成長を促進するとともに、既存のシカ防護柵を利用した効率的なニホンジカの捕獲手法確立に向けて、信州大学農学部の方々にご協力をいただきながら新たな取組を始めたいです。成果が出るまでにはまだ時間がかかりますが、民有林や農地でも活用できる手法の確立を目指し、継続した研究を行いたいと思います。

今年度は、伊那谷森林計画区第五次国有林野施業実施計画等が樹立となりまします。大鹿村が国有林に何を求めるのか。今、国有林は何ができるのか。村の発展に国有林を最大限活用してもらうにはどんな橋渡しができるのか。国有林の一職員として、また一村民として、ヒントを探しながら一小班でも多く歩こうと思っています。未熟な私が欲張りな森林官でいられるのも、地域や関係機関の皆さん、職員の皆さん、家族にサポートしていただいているおかげだと本当に感謝しています。



瑞泉寺山門

平成二十七年に北陸新幹線が開通し、北陸地方が注目される中で、富山県でも立山黒部アルペンルートや黒部峡谷などの観光地が以前にも増して賑わいをみせています。

そのような中で今回は、富山県の西部に位置する南砺市と東部の上市町から歴史を感じることができるところを案内します。

■名刺 瑞泉寺

彫刻の町、南砺市井波にある井波別院瑞泉寺は、今から約六百年前の一三九〇

ご当地 自慢

富山県南砺市・上市町編

52

富山署

年に本願寺五代門主禎如上人が建立したと伝えられています。

これまでに三度火災により焼失しましたが、信仰心の厚い門徒により再建され今日に至ります。再建の際には、ケヤキの巨木が使われるなど、本堂脇の廊下にはその名残を見ることが出来ます。

また、瑞泉寺再建により発展した「井波彫刻」は、欄間・獅子頭・天神様などの伝統工芸品を生み出し、彫刻産業全国最大規模となりました。

◎アクセス

○J R 西日本城端線福光駅から車で十五分

■本物の和紙 悠久紙

秘境の奥山南砺市の「五箇山」では、古くから手漉きによる和紙づくりが盛んに行われ、今日まで伝統が受け継がれてきています。

富山県内では、朝日町、富山市八尾町などでも和紙づくりが行われていますが、ここ五箇山では、楮一〇〇割で漉いた紙は千年の耐久性があると言われ、全国和紙の中でも最も優れた紙として、京都・桂離宮の大修理にも用いられてい



井波彫刻



雪さらしの様子

昔と同じ技法で漉かれた和紙だけが文化財を保存する紙として認められ、特徴的なのは、冬の楮の「雪さらし」、楮の葉緑素を自然の力で漂白する作業が行われているところです。

昔ながらの作り方で漉いた本物の紙には、時代を越えても変わらない、美しさや力強さがあります。

◎アクセス

○東海北陸自動車道五箇山ICから車で二十五分

■大岩不動尊 磨崖仏

上市町には、千三百年の歴史を有する大岩山日石寺があり、寺の境内には七二五年に行基が彫ったと伝わる国の重要文化財の「大岩日石寺磨崖仏」があります。

高さは三メートルを超え、顔は両目を見開き、右手に知恵を表す剣、左手に慈悲を表す絹索と摩尼宝珠を持っており、実際にこの石像を目にすると、その迫力に圧倒されてしまいます。

この他にも六本滝があり、煩惱を払うための滝行が行われており、ここを訪れる老若男女は後を絶たず、心身の鍛練が行われています。

寺の門前では、名物の山菜料理や素麺を出す店が軒を連ねており、お参りで見えた人々の憩いの場となっています。



大岩山日石寺磨崖仏

◎アクセス

○富山地方鉄道上市駅からバスで二十五分

○北陸自動車道立山ICから車で十五分